

| 質問事項                         |   | 選択式回答   | 記述式回答  |
|------------------------------|---|---------|--|
| <b>経済動向</b>                  |   |         |  |
| 1                            | <p>'2015年1月中旬から下旬にかけての経済状況について、関連する業界、地域等の現状やご自身の知見・経験等を踏まえ、3か月前(2014年10月中旬から下旬)と比べて良くなっているか、悪くなっているかを選んでいただき、その理由をデータや具体的な事例とともに300字以内でご記入ください。その際、前年との違い等お気づきの点があれば併せてご記入下さい。</p> | 悪くなっている | <p>公表されている景気指標から判断すると、事後的に判定される「景気の山」は消費税増税よりも早い2014年1-2月頃と推定される。生産活動の指標である一致CIを見ても、2014年第4・四半期から「局面変化」が生じて、「足踏み」というよりも「後退局面」の入り口に佇んでいるかのようである。理由のひとつは、2013年の個人消費を押し上げた資産効果が一巡して消費が本来あるべき水準に戻り、他方ではコアCPIの上昇によって実質賃金が低迷していることである。来る賃金交渉を労働者側が有利にすすめ、かつ増えた所得のより多くの部分を消費に振り向けていくようにするには、今日よりも明日の物価が少し高くなりそうだという予想形成が必要だ。デフレ・マインドの払拭にいかに取り組むかが2015年の景気の鍵を握る。求人倍率や完全失業率など雇用指標が堅調だというプラス面もあるが、景気に遅行する性質を考えると楽観はできない。</p> |
| <b>デフレ脱却・経済の好循環の継続に向けた取組</b> |   |         |  |
| 2-1                          | <p>「経済財政諮問会議における今後の課題について」(平成26年12月27日経済財政諮問会議 甘利経済財政政策担当大臣提出資料)をご覧ください、特に強化・加速すべきとお考えになる取組について具体的なご意見がございましたら500字以内でご記入ください。</p>   | -       | <p>わが国は日銀が追加金融緩和のアクセルを踏む一方、財政の方では消費税率の再引上げを延期した。日銀による財政ファイナンスのリスクが一段と高まっている。税収の上振れの恩恵で15年度に基礎的財政収支を半減させる目途はついたものの年金や医療の構造改革には着手できなかった。財政健全化は一筋縄ではいかない。しかし、短期的な景気動向に配慮してはいつまでたっても着手はできない。今必要なことは、信頼に足りうる財政再建への日本政府のコミットメントを国内外の市場や投資家に明確伝えることである。そのためには徹底した歳出の見直しと外形標準化を含んだ法人税改革、税制を通じ資産・所得格差の是正の道筋を今春までに立てて、国民に納得してもらう必要がある。</p>   |
| 2-2                          | <p>質問2-1でご提案いただいた取組について、その背景となる具体的な事例やモデルがあればご紹介ください。</p>   | -       | <p>経済成長と両立する財政健全化には何が必要か。原則的にはマイナスの乗数効果が小さく、かつコミットメントに対する市場の信頼が高まる内容が最優先されるべきである。例えば、年金改革は長期的な持続可能性に大きな効果をもっているし、短期的にも需要への負の効果が少ない。支給開始年齢の引き上げに伴って将来の年金受給者が長い期間にわたって貯蓄を蓄えるようになれば、プラスの効果すら生まれる可能性がある。</p>   |